

事務事業評価調書

担当課	民生部	生活環境課	環境衛生係	事務事業No.	14214
事務事業名	不法投棄対策事業				
会計	一般会計	款	4	項	2
				目	1
総合計画	まちづくりのテーマ 第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	88
施策目標	快適な生活環境の形成				
施策項目	廃棄物の適正な処理とリサイクルの推進				
個別計画					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）		
	ごみの不法投棄に対して、市民、事業者、行政がそれぞれの立場で清潔で快適な生活環境を守るため取組む。		ごみの不法投棄の防止を進め、不法投棄ごみ発見時の迅速な回収・処理に努め、清潔で快適な生活環境を守り、住みよい地域形成を進める。		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民啓発、不法投棄防止啓発用看板の常習箇所への設置及び希望者への配布を行い、ごみの不法投棄を防止する。 ・不法投棄ごみを発見した場合、速やかに回収・処理し清潔で快適な生活環境及び景観の保全を維持する。 ・環境保全推進員活動による不法投棄ごみの回収や防止パトロール実施。 ・地域や団体等との連携による不法投棄ごみの発見や早期回収の実施。 ・広域連合・県等との連携による広域的な不法投棄対策の推進。 				

【事務事業の実績】

事業費	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度					
	総事業費（決算額）	1,759,822 円	2,022,397 円	2,650,259 円					
	財源内訳	特定財源	1,703,000 円	2,000,000 円	2,000,000 円				
		一般財源	56,822 円	22,397 円	650,259 円				
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	ごみの不法投棄防止月間	回	2	2	2	2	100.0%	2
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値	
	①	不法投棄ごみの回収量	トン	16	12	17	12	141.7%	12
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果									
(指標①)									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計		
	評価	事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化				継続	17
	点数	高い	高い	高い	重複なし	普通	適正である					
評価理由	<p>当市における不法投棄ごみは、市民の通報や協力、また環境保全推進員活動による精力的な、不法投棄ごみの収集や防止パトロール、常習箇所への防止看板設置や広報活動などの活動を行っている。清潔で快適な生活環境の維持、住みよい地域の形成や、豊かで多彩な自然環境保全に重要な事業である。</p>											

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>ごみの不法投棄は絶える事がなく、特に山間部の多い当市では、山林や谷間などに投棄されることが多く発見に至るまでに期間を要する事もある。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>不法投棄防止策としての特効薬は存在しない中、広報活動などによる排出者のモラルの向上を高める施策を展開し、巡視や防止策を進め、地域の協力を得ながら継続的に事業を進める事が重要である。</p>

事務事業評価調書

担当課	民生部	生活環境課	クリーンプラント係	事務事業No.	14233			
事務事業名	し尿処理事業							
会計	一般会計		款	4	項	2	目	3
総合計画	まちづくりのテーマ			第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち		前期計画登載頁	88	頁
	施策目標			快適な生活環境の形成				
	施策項目			廃棄物の適正な処理とリサイクルの推進				
個別計画								頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）				
	快適な生活環境の観点から安定したし尿処理を行う			公衆衛生の向上と環境保全を図る				
主な業務内容	し尿処理施設の安全で安定した維持管理							

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		
	総事業費（決算額）			87,770,198	円	112,898,181	円	108,281,423	円
財源内訳	特定財源		5,425,740	円	5,439,240	円	5,454,670	円	
	一般財源		82,344,458	円	107,458,941	円	102,826,753	円	
活動指標			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	稼働日数	日	365	366	365	365	100.0%	365
	②								
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）	
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値	
	①	総処理量	kℓ	9,031	9,053	8,379	7,500	111.7%	7,500
	②								
	③								
2. 数値で表せない効果									
(指標①)									

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	高い	一部重複	高い	適正である			
点数	3	3	3	2	3	3	18			
評価理由	下水道の普及と人口減少により、し尿処理量は減少傾向にあるが、浄化槽汚泥、雑排水槽の汚泥処理も行っており、公衆衛生の向上のため、安定したし尿処理は重要な事業である。									

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など） 経年劣化による主要設備の故障が見られ、安定的な維持管理のためには点検整備や大規模な修繕工事が必要である。また公共下水道への接続が進み、総処理量がさらに一定程度減少すれば、下水道施設への投入処理が可能となることから、将来的な検討が必要である。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容） 施設の長寿命化のために、中長期的な点検整備、修繕工事計画に基づく施設管理を進める。

事務事業評価調書

担当課	民生部	生活環境課	環境衛生係	事務事業No.	14243
事務事業名	生ごみ等資源化推進事業				
会計	一般会計	款	4	項	2
		目	4		
総合計画	まちづくりのテーマ 第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	87 頁
施策目標	快適な生活環境の形成				
施策項目	廃棄物の適正な処理とリサイクルの推進				
個別計画					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）	
	ごみの排出者自らが、生ごみの減量化と再資源化を行うことで、ごみの減量化、再資源化に対する市民意識の高揚を図る。			ごみの減量化や再資源化を図り、循環型社会の形成を進め、快適な生活環境の基盤形成を図る。	
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 堆肥センターはH26年2月から指定管理者による運営管理が開始され、市内小中学校及び保育園、宿泊施設、協力自治会、福祉施設、市内飲食店等から排出される生ごみを堆肥化している。生産された堆肥は学校での花づくりや野菜作りに活用されている。 生ごみ堆肥化等処理容器を購入した市民に購入費の1/2（限度額あり）を補助する。電気式では上限30,000円、100ℓ以上の容器：上限3,000円、100ℓ未満の容器：上限2,000円 				

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度
	総事業費（決算額）			11,843,230 円	12,170,809 円
財源内訳	特定財源		389,000 円	498,000 円	606,000 円
	一般財源		11,454,230 円	11,672,809 円	17,397,710 円

活動指標	指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度（令和元）	達成率	次年度（R3）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	堆肥化生ごみ収集量	トン	162	219	148	250	59.2%	
②	牛ふん堆肥製造量	トン	135	161	170	135	125.9%	
③	生ごみ堆肥製造量	トン	8	11	7	13	53.8%	

成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	前年度（令和元）	達成率	次年度（R3）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
①	生ごみ堆肥化等処理容器設置数	件	36	36	32	60	53.3%	
	牛ふん堆肥軽トラ販売数	台	172	189	213	180	118.3%	
	牛ふん堆肥2tトラック販売数	台	6	16	24	10	240.0%	
2. 数値で表せない効果 (指標①)								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	普通	高い	高い	重複なし	普通			
点数	2	3	3	3	2	3	18			
評価理由		生ごみ堆肥化は、循環型社会の形成と焼却ごみの減量に有効な事業である。現在、市内小中学校及び保育園、宿泊施設、協力自治会、福祉施設、市内飲食店等（R3.3月末 収集箇所：施設19件、宿泊施設9 飲食店等32件）から排出される生ごみを収集し堆肥化している。生ごみ収集量については、平成31年4月より市内飲食店等の協力を得て、箇所及び収集量は増加したが、令和2年度は、コロナウィルス感染症感染拡大防止に伴う、宿泊施設や飲食店の利用者減少による影響が大きく、生ごみ収集量は、前年比32.42%の減少となった。春と秋の牛ふん堆肥販売は市民ニーズが非常に高く、年々販売件数は増加している。また不用食器回収事業の際に、来場者に無料配布する生ごみ堆肥は人気が高く、環境保全に伴う再資源化に対する住民意識の高揚がうかがえる。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度において、コロナウィルス感染症感染拡大予防に伴う、事業系生ごみの搬出量の減少が危惧される。 生ごみ収集量の目標値までの引き上げや、施設の有効活用を図るため、一般家庭から排出されるものについて、いかに協力自治会の理解や参加を得て行くかが課題である。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
リサイクルや資源の再利用化について、多くの広報活動やリサイクル推進団体との協同活動を行い、市民の資源の再利用に対する理解を高め、一般家庭や事業系等からのな生ごみ排出増量を図り、ごみの減量化や再資源化を進める。

事務事業評価調書

担当課	民生部	生活環境課	環境保全係	事務事業No.	14314
事務事業名	環境調査事業				
会計	一般会計	款	4	項	3
		目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ	第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち	前期計画掲載頁	79	頁
施策目標	自然と共生した環境の創造				
施策項目	自然や環境に関する学習の促進				
個別計画	環境基本計画				頁
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）	
	環境に悪影響を及ぼす恐れのある事業所等の調査を行い、改善、解決に向けた指導、助言を行う。生活環境の保全を目的とした環境調査（河川水質、自動車騒音、ダイオキシン）を実施する。			当市の貴重な財産である良質な水や良好な大気等の環境等を適切に保全して快適な環境を未来へ引き継ぐ。	
主な業務内容	下記環境調査の実施。定期的調査の他苦情等が発生した場合は随時実施する。 ○河川、湖沼の水質調査 ○地下水連続観測 ○ダイオキシン類：大気、土壌 ○低周波音：食品製造施設 ○臭気：堆肥製造施設、食品製造施設、畜産関係 ○特定悪臭物質：堆肥製造施設、畜産関係 ○自動車交通騒音常時監視				

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	総事業費（決算額）		11,043,274 円	11,887,736 円	11,324,597 円	11,324,597 円	100.0%	53
	財源内訳	特定財源	11,000,000 円	4,520,000 円	4,520,000 円	4,520,000 円	100.0%	8
一般財源		43,274 円	7,367,736 円	7,367,736 円	7,367,736 円	100.0%	10	
活動指標	指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①	水質調査	53	53	54	53	101.9%	53
	②	ダイオキシン測定	8	8	8	8	100.0%	8
③	臭気測定	10	10	10	10	100.0%	10	
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	単位		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①	水質調査	149	149	152	149	102.0%	149
②	ダイオキシン測定	12	12	12	12	100.0%	12	
③	臭気測定	104	110	101	100	101.0%	100	
2. 数値で表せない効果 (指標①)								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
	評価	高い	高い	普通	重複なし	高い	適正である			
点数	3	3	2	3	3	3		18		
評価理由		臭気の問題については、周辺の方々は大変困っておられ、改善を強く希望している。引き続き監視を強め、現状を把握し、改善に向け事業者に働きかけていく必要がある。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
堆肥製造施設の臭気問題については、事業者が気体排出口の嵩上げ等の対策を講じてきたが、抜本的な解決には至らず、現在は燃焼方式による臭気対策を検討している。畜産事業者の臭気問題については、臭気指数の数値は改善傾向にあり、地元自治会とも連携して改善方法を試行している。食品製造施設の臭気問題については、気体排出口の臭気指数が基準を超えていることから、新たな脱臭装置の導入を進めている。また、低周波音については、人体に影響のある状況ではないが、事業者は、設備の点検、更新を進めている。 近年、畦草焼き、もみ殻焼き等の煙、堆肥の悪臭など農作業に起因する苦情が増加している。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
事業所の状況と対策を把握し、地元自治会等と連携しながら苦情の解消を図る。 特に、堆肥製造施設については、新たな燃焼方式による設備導入について地元対策委員会や県の意見を聞きながら慎重に対応していく。 農作業に起因する苦情については、農政等の関係課と連携を取りながら対応していく。

事務事業評価調書

担当課	民生部	生活環境課	環境保全係	事務事業No.	14315
事務事業名	環境保全事業				
会計	一般会計	款	4	項	3
		目	1		
総合計画	まちづくりのテーマ 第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画登載頁	79
	施策目標 自然と共生した環境の創造				
	施策項目 自然や環境に関する学習の促進				
個別計画					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）	
	市民、事業者、行政がそれぞれの立場で自然、景観、生態系の保全に取り組む。			当市の貴重な財産である良質な水や良好な大気の環境等を適切に保全して快適な環境を未来へ引き継ぐ。	
主な業務内容	<p>「環境基本計画」に基づき総合的な環境への取り組みを進めている。地球温暖化防止対策の取組みとして、大町市地球温暖化防止実行計画（令和元～令和5年度）に基づき、市役所の業務に伴い排出される温室効果ガス排出量をH25年度比10%減の達成に向け取り組んでいる。</p> <p>環境保全推進員50名を委嘱し、パトロールによる不法投棄の防止やゴミの回収、外来植物の駆除など良好な生活環境の確保に努めている。</p>				

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	総事業費（決算額）		3,891,995 円	3,956,954 円	4,082,805 円			
財源内訳	特定財源			3,000,000 円				
	一般財源		3,891,995 円	956,954 円	1,082,805 円			
活動指標	指標名	単位	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度実績値	令和2年度目標値	達成率（%）	次年度（R3）目標値
	① 外来植物除去回数	回	2	3	5	3	166.7%	3
	② 公共施設のCO2排出量	kg-CO2	8,780,413	8,478,567	8,339,446	9,584,711	87.0%	9,481,650
	③ 環境保全推進員巡視活動	時間	7,805	7,805	7,805	7,805	100.0%	7,805
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名	単位	実績値	実績値	実績値	目標値	（%）	目標値
	① 外来植物除去量	kg	5,250	6,590	8,040	8,200	98.0%	8,200
	② 公共施設のCO2削減	%	H25年度比14.8%減	H25年度比17.7%減	H25年度比19.1%減	H25年度比4%減		H25年度比6%減
③ 不法投棄物回収量	t	16	12	17	12	141.7%	12	
2. 数値で表せない効果		(指標①)						

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	普通	重複なし	普通			
点数	3	3	2	3	2	3	18			
評価理由		<p>脱炭素社会、再生可能エネルギーへの転換等地球温暖化防止に関心が集まる中、地球温暖化防止実行計画（事務事業編）に基づく施策の推進と当市全体の計画となる地球温暖化防止実行計画（区域施策編）の策定を進め、環境保全全般において施策をさらに推進する必要がある。</p> <p>不法投棄の撲滅や外来種の駆除についても継続した取り組みが必要である。</p>								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
<p>環境保全推進員50人により市内のパトロール及び不法投棄ごみの回収を行っている。連合自治会の協力により6月と10月には河川等のパトロールや啓発活動を実施している。自治会の協力もいただいているが、依然として絶えない状況である。</p> <p>外来植物については、駆除した箇所は一定の効果があるが継続が必要である。</p> <p>地球温暖化防止への関心が高まり、県では2050年ゼロカーボン宣言した。当市においても現状把握と目標選定が急がれる。</p>
改善の方法等（上記の課題をふまえた次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
<p>不法投棄対策は引き続き環境保全推進員の活動を中心に連合自治会、事業所とも協力して推進していく。</p> <p>外来植物については、市民への啓発をさらに進めるとともに連合自治会、事業所等にも協力を依頼していきたい。</p> <p>地球温暖化防止対策については、地球温暖化防止実行計画（区域施策編）の策定を進め令和3年度中の完成を目指す。</p>

事務事業評価調査

担当課	民生部	生活環境課	環境保全係	事務事業No.	14316
事務事業名	自然エネルギー活用推進事業				
会計	一般会計	款	4	項	3
				目	1
総合計画	まちづくりのテーマ 第4節 豊かな自然を守り快適に生活できるまち			前期計画掲載頁	79
	施策目標 自然と共生した環境の創造				
	施策項目 自然や環境に関する学習の促進				
個別計画					
事務事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）		
	自然エネルギー（水力）を活用した町川発電所の管理を行うとともに、公共施設での再生可能エネルギーの普及を推進する。		地域の特性を生かした再生可能エネルギーの普及促進により地球温暖化を防止する。		
主な業務内容	町川発電所の管理、公共施設への再生可能エネルギー普及促進				

【事務事業の実績】

事業費	年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度		
	総事業費（決算額）		85,220	円	1,865,573	円	13,824,744	円
財源内訳	特定財源			円		円		
	一般財源		85,220	円	1,865,573	円	13,824,744	円
活動指標	指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
			実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①	町川発電所発電量		1,078,832	665,190	1,078,832	61.7%	1,078,832
	②							
成果指標	1. 数値で表せる指標		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和2年度	達成率	次年度（R3）
	指標名		実績値	実績値	実績値	目標値	(%)	目標値
	①	町川発電所売電額		9,974,933	6,648,843	10,000,000	66.5%	10,000,000
	②	クリーンプラント効果額		8,737,047	3,753,038	8,700,000	43.1%	8,700,000
	③	計		18,711,980	10,401,881	18,700,000	55.6%	18,700,000
2. 数値で表せない効果								
（指標①）クリーンプラント効果額3,753,038円=8,212,370円（施設運転に必要な電気を料金に換算した数値）-4,459,332円（実際の電気購入料金）								

【事業の評価】

評価	項目	必要性		有効性		効率性		今後の方向性	方向性	評価点合計
		事業の必要性	市民ニーズ	上位施策への貢献度	他事業との重複	事業の効率性	実施主体の適正化			
		評価	高い	高い	高い	重複なし	普通			
	点数	3	3	3	3	2	3		継続	17
	点数	3	3	3	3	2	3			18
評価理由		町川発電所は再生可能エネルギーを利用し、地球温暖化防止にも貢献しながら、クリーンプラント（し尿処理場）へ電力を供給し、さらに余剰分は売電により収益を上げている。								

【具体的な課題と改善】

事業に対する課題について（目的に対する現状など）
町川発電所は発電機の故障により約5か月間停止したことから発電量は年間665千kwh、昨年度の62%となった。クリーンプラントへの供給量を料金に換算すると375万円余、また、売電収入は664万円余と事業効果額は1,040万円余となる。一方、これに係る経費は発電機の修繕に1,100万円を要したことから収支では342万円余のマイナスとなった。
将来、施設の維持に必要な人材（電気主任技術者）の確保についての検討が必要である。
改善の方法等（上記の課題をふまえて次年度以降に実施する具体的な改善の内容）
日々の点検と定期的なメンテナンスを適切に行い運転時間の確保に努め安定した収入を確保したい。売電収入について、地球温暖化防止に資する事業実施のため、基金条例の一部改正を行った。